

フリーペーパー ペッコ

PECCO

VOL.60 2022.8

岩手県立図書館
三代目館
【2006年～】



ここに来て
16年だよ!

100周年
はじめました。



発行：岩手県立図書館



岩手県立図書館創立100周年 初代館時代の豆知識



開館日 ▶ 大正11年4月20日
(建設着手日 大正10年6月2日)

所在地 ▶ 盛岡市大字仁王第1地割字内丸68番
《現 内丸緑地》

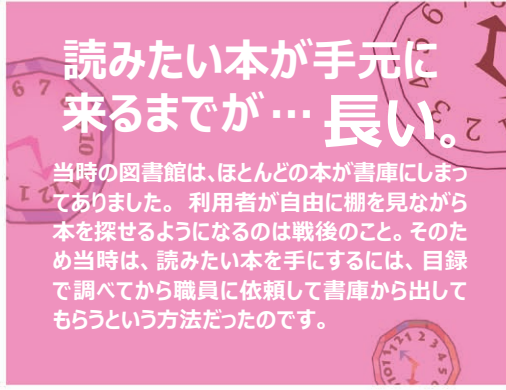
開館時間が長かった。



岩手県立図書館創立当時の開館時間は
今よりも長い時間開館していました。

- 夏場 ▶ 午前8時～午後9時
- 冬場 ▶ 午前9時～午後9時

読みたい本が手元に 来るまでが…長い。



当時の図書館は、ほとんどの本が書庫にしま
てありました。利用者が自由に棚を見ながら
本を探せるようになるのは戦後のこと。その
ため当時は、読みたい本を手にするには、目
録で調べてから職員に依頼して書庫から出
てもらうという方法だったのです。

大好評！ テント張りの図書室。

昭和5年(1930)8月、九戸郡中野村(現・
洋野町)に海浜図書館が開設されました。海
水浴客や帰省した学生たちを対象としたテ
ント張りの図書室で、いわば自動車文庫の先駆け
といえます。その後は高田松原(現・陸前高田
市)や磯鶏村(現・宮古市)などでも
行われました。

戦争が激しさを増すなか、 なんとか開館を続けました。

昭和19年(1924)の秋には、「盛岡地区防衛
司令部」が岩手県立図書館の中に設置され
ました。いくつもの部屋が占領されていく中、職員
用の入口から利用者を入れ、事務室で貸出
手続きをするなど、なんとかして開館を
続けたことを、当時の職員が思い出
として語っています。



「内丸の化物屋敷」を 立て直す！

ノギリやカンナを
使って本棚も
作りました。



終戦の翌年、昭和21年(1946)に岩手県立図書館の
司書に就任した吉田孤羊は、カード目録と実物の照合や
NDC図書分類(日本十進分類法)の取り入れなど、
当時荒れ果てて「内丸の化物屋敷」と呼ばれていた県立
図書館を立て直すために尽力しました。

GHQによる 民間教育政策



昭和23年(1948)にGHQによる民間教育
政策として県立図書館に視聴覚ライブラリーが
併設されました。日本映画やレコードなども取り
入れ、県民に広く親しまれる施設として成長して
いき、県内各地で行われた映画会の開催数は
なんと年間平均5000回以上！観覧者の動員
数は150万人を超える大盛況でした。

館長室が サロン!?



作家の鈴木彦次郎が岩手県立図書館館
長だったころの館長室は、地元の人々のちよつ
としたサロンのようになっており、昼夜を問わず
訪問客が絶えなかったそう。当時の岩手県
知事・国分謙吉も立ち寄ったことがあったそ
うです。

ちなみに彦次郎さんの 後任館長は 石川啄木の友人。

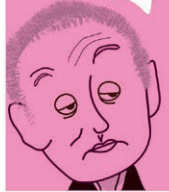
東京朝日新聞の通信部長
などを務めた新聞人・
伊東圭一郎がその人。
盛岡中学時代の啄木の
友人で『人間啄木』
という評伝を
書いています。



岩手県の
歴史や文化の
研究にお役立
て下さいね。

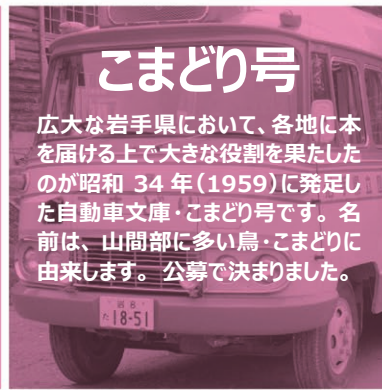
現在の貴重なコレクション 「新渡戸文庫」は 自宅の火事がきっかけ。

昭和22年(1947)から岩手県立図書館の
囑託として後進の指導にあっていた新渡戸
仙岳は、自宅が火事になったことをきっかけに、
焼け残った約5000冊の資料を県立図書館
に寄贈することに決めました。ちなみにその
ときの火事の痕跡なのか、新渡戸文庫の中
には、焦げ跡の残った資料があります。



こまどり号

広大な岩手県において、各地に本
を届ける上で大きな役割を果たした
のが昭和34年(1959)に発足し
た自動車文庫・こまどり号です。名
前は、山間部に多い鳥・こまどりに
由来します。公募で決めました。



昭和35年、都市計画。

当時の内丸通り(現中央通り)が、都市計画
にしたがって県立図書館の軒下まで拡張され
ました。閲覧室のすぐ脇が道路となったため、
騒音がひどかったようです。



移転先決まらずも 昭和39年、建物 カット!



内丸通りの拡張工事はさらに進み、昭和39年
(1964)には、前面に突き出していた両袖部分
がすっぱり切り落とされてしまいました。



岩手麺ガイド 2021-22

AAC ネットワーク 出版

おすすめテイクアウトグルメや平泉・田野畑・遠野の道の駅が特集された『岩手麺ガイド』の最新版。特集の他にも、沿岸・県央・県北・県南の4つのエリアに分かれた地域別の麺処も紹介されています。このガイドブックを読めば、岩手の美味しい麺グルメが食べたくなること間違いなしです。



岩手謎学漂流記 読んで旅するイワテ50の奇譚

高橋政彦 著/エンジェルパサー 出版

「義経北行伝説」「盛岡城下と鬼門封じ」「遠野物語」の大津波災害譚…。9つのテーマごとに分けられた岩手の奇譚全50話が収録されています。巻末には、小説家・平谷美樹氏の特別寄稿「謎学と妄想のすすめ」を掲載。『大人のための情報紙シニアズ』の連載を改稿・再編集した資料です。



縄文里山づくり 御所野遺跡の縄文体験

御所野縄文博物館 編/新泉社 出版

昨年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の1つとして、世界文化遺産に登録された御所野遺跡は、縄文時代に800年続いたムラであったことが分かっています。縄文時代の森や川の他、住居や狩猟採集活動を再現しようとする取り組み「縄文里山づくり」と、その活動を通して見えてきた当時の暮らしについて紹介しています。



君の話

三秋穂 著/早川書房 出版

記憶改変技術によって「義憶」を植え付けられた青年・天谷千尋。その記憶にある「一度も会ったことのない幼馴染」。とある夏の日に、実在するはずのない幼馴染・夏風灯花が現れ—。岩手出身の著者が描く優しい嘘と美しい喪失が織りなす淡い恋の物語。2018年7月刊行の単行本の文庫版です。



柳は萌ゆる

平谷美樹 著/実業之日本社 出版

維新の動乱に立ち向かった、盛岡藩の若き家老・榎山茂太(後の榎山佐渡)。彼は「百姓による世直し」を夢見るが、盛岡藩は新政府軍と対決の時を迎え—。新しい世にふさわしい政の実現を志した男の苦悩と生きざまが描かれた歴史長編です。2018年刊行の単行本から大幅加筆の大増補版です。



冠さんの時計工房 5

橋渡りん 著/秋田書店 出版

盛岡にある時計店「冠時計店」を営む主人公・冠綾子のもとには、日々多くの人々が訪れます。最終巻である5巻では、時計店を訪れた花屋の女性との触れ合い、師匠の一人倉との再会が収録されています。人々との触れ合いの他にも、機械式時計の仕組みや時計に関する雑学も載っています。